

Q3-1. 白川は火山灰（ヨナ）が多く流れることから、立野ダム貯水池は、すぐに火山灰（ヨナ）によって埋まってしまうのではないのでしょうか。

- 立野ダムでは、高さ5m×幅5mの放流孔を3つ設けることとしており、そのうちの1つを、現在の河床と同じ高さに設置するため、普段は通常の川と同じ状態で流れます。
- 火山灰は1mm程度であることから、放流孔に詰まることなく、ダムの下流側に流水とともにその多くが排出するものと考えています。

(参考) 堆砂の考え方

- 洪水時には洪水調節のために流水を一時貯留することから、貯留に伴う流速の低減等を踏まえたシミュレーションにより、ダム湛水池内の土砂の堆積量を検討しています。
- この結果、100年後には約20万 m^3 の土砂が堆積する可能性があり、仮にその状態で計画規模（昭和28年6月洪水規模）の洪水が発生した場合、洪水時には一時的に、これまでに河道に堆積した土砂と合わせて最大約60万 m^3 の土砂が堆積する可能性がありますが、ダムの水位の低下に合わせて下流へと流れます。（図-1）
- したがって、貯水池が土砂で埋まるようなことはないと考えています。
- なお、100年後の平常時にダム上流の河道内に堆積している土砂量は約20万 m^3 程度ですが、計画堆砂量^{*}としては、洪水時に一時的に堆積する土砂も考慮した約60万 m^3 としています。

※計画堆砂量とは、100年間にダム貯水池に堆積すると予想される土砂量

- 詳しい資料については[こちら](#)に掲載しています。

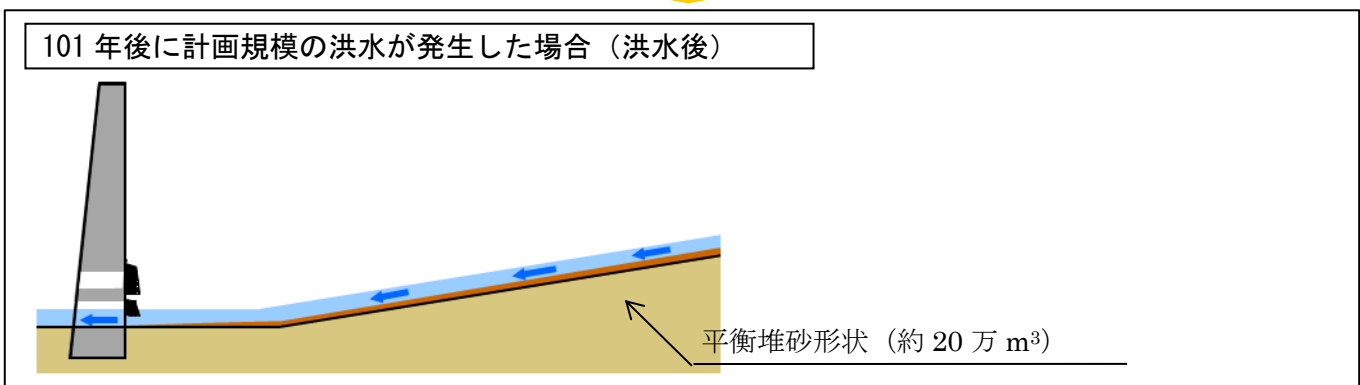
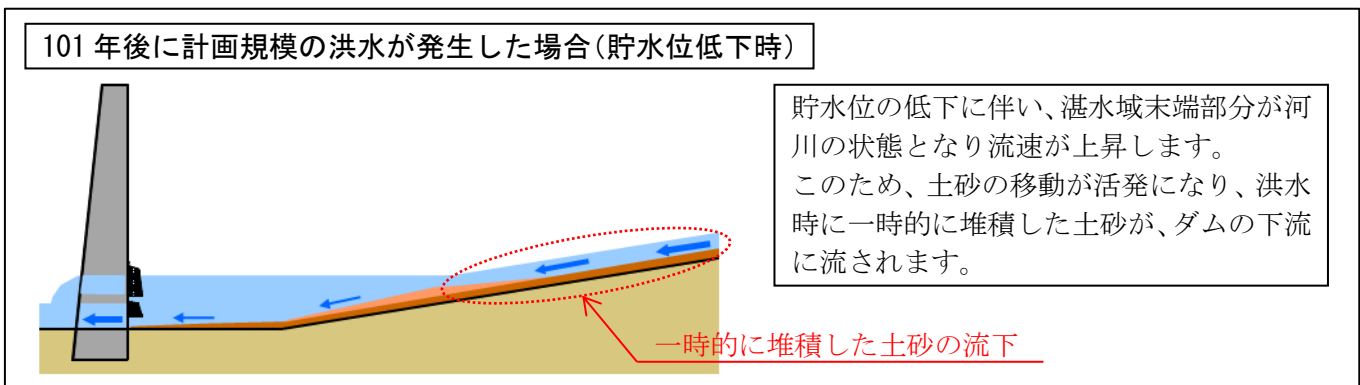
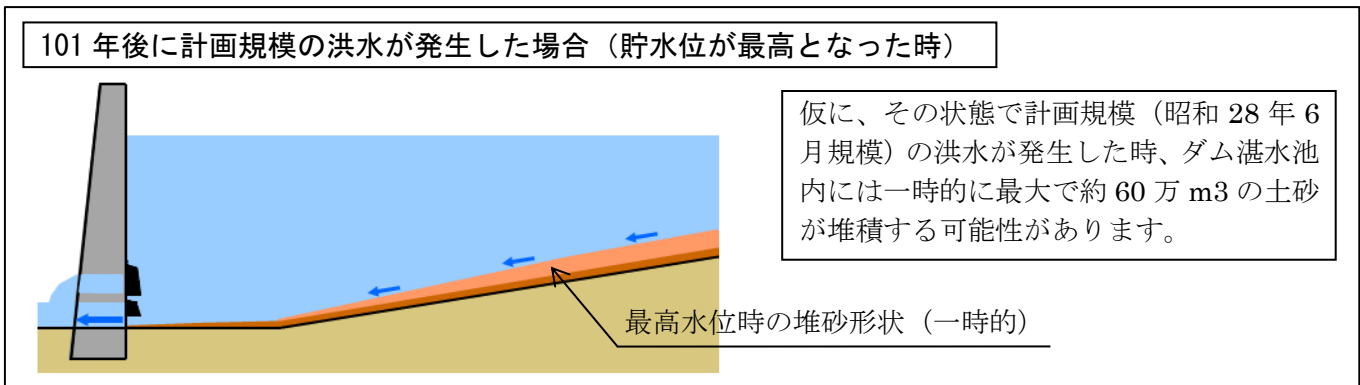
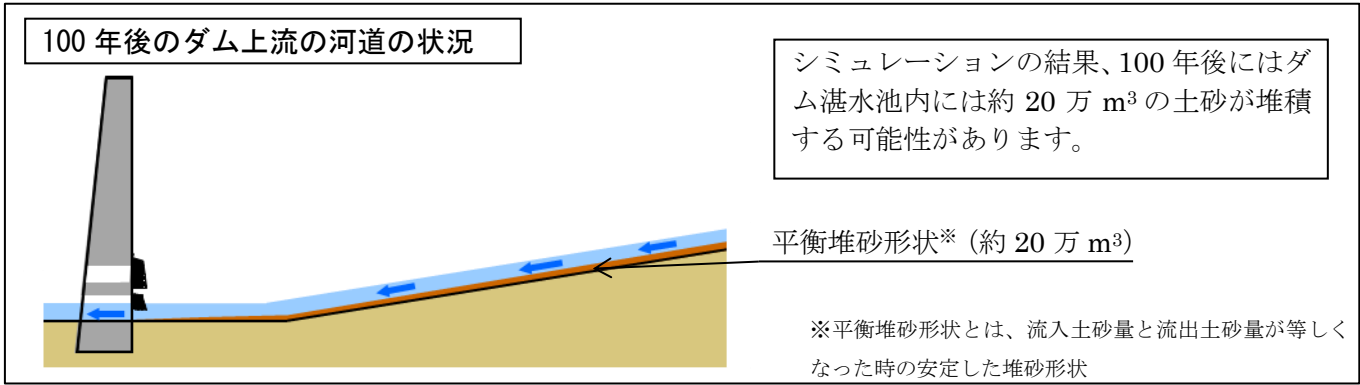
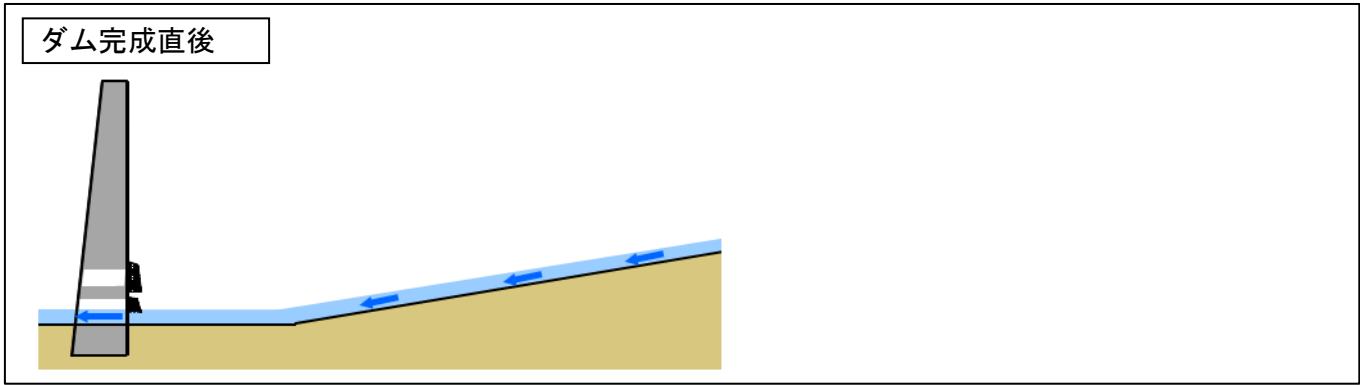


図-1 堆砂量計算の考え方